

2節 素地ごしらえ

18.2.1 一般事項

この節は、木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、モルタル面、コンクリート面、ボード面等の素地ごしらえに適用する。

18.2.2 木部の素地ごしらえ

- (1) 木部の素地ごしらえは表 18.2.1 により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合はA種、透明塗料塗りの場合はB種とする。

表 18.2.1 木部の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A 種	B 種	規格 番号	規格名称	種類			
1	汚れ、 付着物 除去	○	○	—			—	素地を傷つけない ように除去する。 油類は、溶剤等で ふき取る。
2	やに 処理	○	○	—			—	やには、削り取り 又は電気ごて焼き のうえ、溶剤等で ふき取る。
3	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P 120～220			—	かんな目、逆目、 けば等を研磨す る。
4	節止め	○	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用 調合ペイント	合成樹脂	Hi-CR 下塗白（無鉛） 塗料用シナーA 0～5%	節及びその周辺 に、はけ塗りを行 う。
				JASS 18 M-308	セラックニス 類	白ラック ニス1種		
5	穴埋め	○	—	JIS K 5669	合成樹脂エマ ルションパテ	耐水形	Hiビニレックス 耐水パテ（仕上）	割れ、穴、隙間、 くぼみ等に充填す る。
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P 120～220			—	穴埋め乾燥後、全 面を平らに研磨す る。

(注) 1. ラワン、しおじ等導管の深いもの場合は、必要に応じて、工程2の後に塗料の製造所の指定する目止め処理を行う。

2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。

3. JASS 18 M-304 及びM-308 は、日本建築学会材料規格である。

4. 工程4の節止めにおいて、合成樹脂調合ペイント塗り及びつや有合成樹脂エマルションペイント塗りの場合はJASS18 M-304 を適用し、それ以外はJASS 18 M-308 を適用する。

- (2) 透明塗料りの素地ごしらえで、素地面に、仕上げに支障のおそれがある著しい色むら、汚れ、変色等がある場合は、表 18.2.1 の工程を行った後、着色剤等を用いて色むら直しをする。

18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ

鉄鋼面の素地ごしらえは表 18.2.2 により、種別は特記による。特記がなければ、C種とする。ただし、7節 [耐候性塗料塗り (DP)] の場合は、B種とする。

表18.2.2 鉄鋼面の素地ごしらえ

工 程		種別			塗料その他	面の処置
		(注) A種	(注) B種	C種		
1	汚れ、付着物 除去	○	—	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシ等で除去
2	油類除去	○	—	—	—	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後、湯又は水洗い
		—	○	○	—	溶剤ぶき
3	錆落とし	○	—	—	—	酸漬け、中和及び湯洗いにより除去
		—	○	—	—	ブラスト法により除去
		—	—	○	—	ディスクサンダー、スクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙P120～220で除去
4	化成皮膜処理	○	—	—	—	りん酸塩処理後、湯洗い乾燥

(注) A種及びB種は、製作工場等で行うものとする。

18.2.4 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは表 18.2.3 により、種別は特記による。特記がなければ、塗り工法に応じた節の規定による。

表18.2.3 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料その他	面の処置
		(注) A種	B種		
1	汚れ、付着物 除去	○	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシ等で除去
2	油類除去	○	—	—	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後、湯又は水洗い
		—	○	—	溶剤ぶき
3	化成皮膜 処理	○	—	—	りん酸塩処理後、水洗い乾燥又はクロメートフリー処理後、乾燥

(注) A種は、製造所等で行うものとする。

18.2.5 モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ

モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえは表 18.2.4 により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.2.4 モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料 その他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A 種	B 種	規格 番号	規格名称	種類			
1	乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ、 付着物 除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3	吸込止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマ ル ションシーラ ー	—	水性透明 シーラー* 水道水 100%	全面に塗り付け る。
4	穴埋め パテかい	○	○	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	ひび割れ、穴等を 埋めて、不陸を調 整する。
				JIS K 5669	合成樹脂エマ ル ションパテ	耐水形	H i ビニレック ス 耐水パテ (仕 上)	
5	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P 120～220			—	乾燥後、表面を平 らに研磨する。
6	パテ しごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取り 平滑にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エマ ル ションパテ	耐水形	H i ビニレック ス 耐水パテ (仕 上)	
7	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P 120～220			—	乾燥後、全面を平 らに研磨する。

- (注) 1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程3の吸込止めは、塗料の製造所の指定するものとする。
 2. 仕上材が壁紙の場合、工程3、工程4及び工程6に用いる塗料その他は、壁紙専用のものとする。
 3. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。

※吸込止めには、水性透明シーラー以外に、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ、水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

18. 2. 6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

(1) コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえは表 18.2.5 により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。ただし、7節〔耐候性塗料塗り（DP）〕の場合は、(2)による。

表18. 2. 5 コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
	A 種	B 種	規格 番号	規格名称	種類		
1 乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3 吸込み 止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマ ル ションシーラ ー	—	水性透明 シーラー※ 水道水 100%	全面に塗り付け る。
4 下地調整 塗り	○	○	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又はE	(C-1) 1材フィラー #200	全面に塗り付け て平滑にする。
						(C-2) 1材カチオン フィラー	
						(E) アンダーフィラ ーS又はAL	
5 研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	乾燥後、表面を 平らに研磨す る。
6 パテ しごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取 り平滑にする。
			JIS K 5669	合成樹脂エマ ル ションパテ	耐水形	Hiビニレック ス 耐水パテ（仕 上）	
7 研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を 平らに研磨す る。

- (注) 1. コンクリート面の場合は、工程3を省略する。
 2. 合成樹脂エマルションパテは、外部に用いない。
 3. 工程4の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2 又はE の使い分けは、15.6.5 [下地調整] の(1)及び(4)による。
 4. 仕上材が壁紙の場合、工程3、工程4及び工程6に用いる塗料その他は、壁紙専用のものとする。

※吸込止めには、水性透明シーラー以外に、水性ホワイトシーラー、水性シミ止めシーラーⅡ、水性カチオンシーラー透明、水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

(2) 押出成形セメント板面及び7節〔耐候性塗料塗り（DP）〕におけるコンクリート面の素地ごしらは、表 18.2.6 による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表 18. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置
	A 種	B 種	規格 番号	規格名称	種類		
1 乾燥	○	○	—			—	素地を十分に乾燥させる。
2 汚れ、 付着物 除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3 下地調整 塗り ^{(注)1}	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1、 C-2 又は CM-2	(C-1) 1材フィラー #200	全面に塗り付けて平滑にする。
						(C-2) 1材カチオン フィラー	
4 吸込止め	○ ※	○	JASS 18 M-201	反応形合成 樹脂シーラー および弱 溶剤系反応 形合成樹脂 シーラー	—	浸透性シーラー(新)、 ファイン浸透 シーラー(透明) 無希釈	全面に塗り付ける。
5 パテ しごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成 樹脂パテ	2液形 エポキシ 樹脂パテ	タフガード EパテN-2	全面をしごき 取り平滑にする。
6 研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面 を平らに研磨 する。

(注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程 3 を省略する。

2. 7 節〔耐候性塗料塗り（DP）〕におけるコンクリート面の場合、工程 3 の建築用下地調整塗材の C-1、C-2 又は CM-2 の使い分けは、15.6.5〔下地調整〕(1)による。

3. 工程 4 のシーラー及び工程 5 のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4. JASS 18 M-201 及び M-202 は、日本建築学会材料規格である。

※A種の場合は、**浸透性シーラー（新）**をご使用ください。

18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえは表 18.2.7 により、種別は特記による。特記がなければ、せっこうボードの目地工法が継目処理工法の場合はA種、その他の場合はB種とする。

表18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

工 程	種別		塗料その他			日本ペイント 商品名	面の処置	
	A 種	B 種	規格 番号	規格名称	種類			
1	乾燥	○	○	—			—	継目処理部分を十分乾燥させる。
2	汚れ、 付着物 除去	○	○	—			—	素地を傷付けないように除去する。
3	穴埋め パテ かい	○	○	JIS K 5669	合成樹脂エマ ル ションパテ	一般形	Hi ビニレックス エコ仕上げパテ	釘頭、たたき 跡、傷等を埋 め、不陸を調 整する。
				JIS A 6914	せっこうボー ド 用目地処理材	ジョイント コンパウンド	—	
4	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙 P 1 2 0 ~ 2 2 0			—	乾燥後、表面 を平らに研磨 する。
5	パテ しごき	○	—	JIS K 5669	合成樹脂エマ ル ションパテ	一般形	Hi ビニレックス エコ仕上げパテ	全面をしごき 取り平滑にす る。
				JIS A 6914	せっこうボー ド 用目地処理材	ジョイント コンパウンド	—	
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙 P 1 2 0 ~ 2 2 0			—	乾燥後、全面 を平らに研磨 する。

(注) 1. 屋外及び水回り部の場合、工程3及び工程5の合成樹脂エマルションパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。(Hi ビニレックスエコ仕上げパテは屋外及び水回り部には使用しないでください。)

2. 工程3及び工程5のせっこうボード用目地処理材は、素地がせっこうボードの場合に適用する。

3. けい酸カルシウム板面の場合、工程3の前に吸込止めとしてJASS 18 M-201に基づく塗料(ファインパーフェクトシーラー(透明・ホワイト)またはファイン浸透造膜シーラー)を全面に塗る。ただし、屋内で現場塗装する場合、吸込止めに用いる材料

は、

上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料(水性カチオンシーラー透明、又は水性カチオンシーラーホワイト)とする。

4. 仕上材が仕上塗材の場合、工程3及び工程5に用いる塗料その他は、仕上塗材の製造所の指定するものとする。

5. 仕上材が壁紙の場合、工程3及び工程5に用いる塗料その他は、壁紙専用のものとする。

る。